

平成25年度後期 情報検定

＜実施 平成25年12月8日（日）＞

1 級

（説明時間 13：20～13：30）

（試験時間 13：30～14：30）

- ・試験問題は試験開始の合図があるまで開かないでください。
- ・解答用紙（マークシート）への必要事項の記入は、試験開始の合図と同時に行いますので、それまで伏せておいてください。
- ・試験開始の合図の後、次のページを開いてください。＜受験上の注意＞が記載されています。必ず目を通してから解答を始めてください。
- ・試験問題は、すべてマークシート方式です。正解と思われるものを1つ選び、解答欄の○をHBの黒鉛筆でぬりつぶしてください。2つ以上ぬりつぶすと、不正解になります。
- ・辞書、参考書類の使用および筆記用具の貸し借りは一切禁止です。
- ・電卓の使用が認められます。ただし、下記の機種については使用が認められません。

＜使用を認めない電卓＞

1. 電池式（太陽電池を含む）以外の電卓
2. 文字表示領域が複数行ある電卓（計算状態表示の一行は含まない）
3. プログラムを組み込む機能がある電卓
4. 電卓が主たる機能ではないもの
 - *パソコン（電子メール専用機等を含む）、携帯電話（PHS）、スマートフォン、タブレット、電子手帳、電子メモ、電子辞書、翻訳機能付き電卓、音声応答のある電卓、電卓付腕時計等
5. その他試験監督者が不適切と認めるもの

＜受験上の注意＞

1. この試験問題は21ページあります。ページ数を確認してください。
乱丁等がある場合は、手をあげて試験監督者に合図してください。
※問題を読みやすくするために空白ページを設けている場合があります。
2. 解答用紙（マークシート）に、受験者氏名・受験番号を記入し、受験番号下欄の数字をぬりつぶしてください。正しく記入されていない場合は、採点されませんので十分注意してください。
3. 試験問題についての質問には、一切答えられません。自分で判断して解答してください。
4. 試験中の筆記用具の貸し借りは一切禁止します。筆記用具が破損等により使用不能となった場合は、手をあげて試験監督者に合図してください。
5. 試験を開始してから30分以内は途中退出できません。30分経過後退出する場合は、もう一度、受験番号・マーク・氏名が記載されているか確認して退出してください。なお、試験終了5分前の合図以降は退出できません。試験問題は各自お持ち帰りください。
6. 試験後にお知らせする合否結果（合否通知）、および合格者に交付する「合格証・認定証」はすべて、Webページ（PC、モバイル）での認証によるデジタル「合否通知」、デジタル「合格証・認定証」で行います。
①団体宛には合否結果一覧ほか、試験結果資料一式を送付します。
②合否等の結果についての電話・手紙等でのお問い合わせには、一切応じられませんので、ご了承ください。

問題を読みやすくするために、
このページは空白にしています。

問題 1 情報とその利用に関する次の記述を読み、各設問に答えよ。

業務を改善する際には、まず問題が起きた背景にある各種の情報を収集し、これらの情報をもとに分析する。情報を収集したり分析したりする手法として、ブレインストーミングや KJ 法がある。

＜設問 1＞ 次のブレインストーミングに関する記述中の に入れるべき適切な字句を解答群から選べ。

集団討議法的一种で、短時間により多くのアイデアを得たい場合に用いられる方法である。集団で自由に意見を出し合い、他人の意見を聞くことで触発され、新しいアイデアが繰り返し発想されていくことを期待した手法であり、多くのアイデアが出るように次のような 4 つの規則がある。

- | | |
|--------------------------|---------------------------------|
| <input type="text"/> (1) | …短時間でできるだけ多くのアイデアや意見を出すようにする |
| <input type="text"/> (2) | …他人のアイデアや意見に対して、良し悪しの批判をしてはならない |
| <input type="text"/> (3) | …テーマからはずれたり目的と違ったりする発言があっても歓迎する |
| <input type="text"/> (4) | …他人のアイデアに便乗し別のアイデアに発展をさせてもよい |

(1) ～ (4) の解答群

- | | |
|---------|---------|
| ア. 質より量 | イ. 自由奔放 |
| ウ. 発展歓迎 | エ. 批判厳禁 |

＜設問 2＞ 次の KJ 法に関する記述中の に入れるべき適切な字句を解答群から選べ。

ブレインストーミングなどで、対象とするテーマについて情報収集し、共通点を段階的に集約し問題の整理・分析をしていく手法に KJ 法がある。KJ 法は次のような手順で行う。

[手順]

- | | | |
|---------|---|---|
| ①情報収集 | … | ブレインストーミングなどの方法で必要な情報を収集する |
| ②カード作成 | … | 1 枚のカードに、関連すると思われる事実や意見を 1 項目だけ記入する |
| ③グルーピング | … | 似た内容のカードをグループ化する |
| ④見出し作り | … | まとめたグループごとにわかりやすい言葉で見出し（タイトル）をつける |
| ⑤カードの配置 | … | グループの数が多い場合、見出しを見ながらさらに③と④を繰り返し、 <input type="text"/> (5) を使ってグループの配置を決める |

- ⑥ 図解 … ⑤で決めた配置にしたがって、(5)を完成させる
 ⑦ 文書化 … 図解を見ながら、テーマやコンセプトを文章で表現する

以下に、上記の手順で作成した“携帯電話購入時の条件”での話し合いで出された意見の一部を示す。見出し作りの作業でつけるべきタイトルとして適切なものは(6)である。

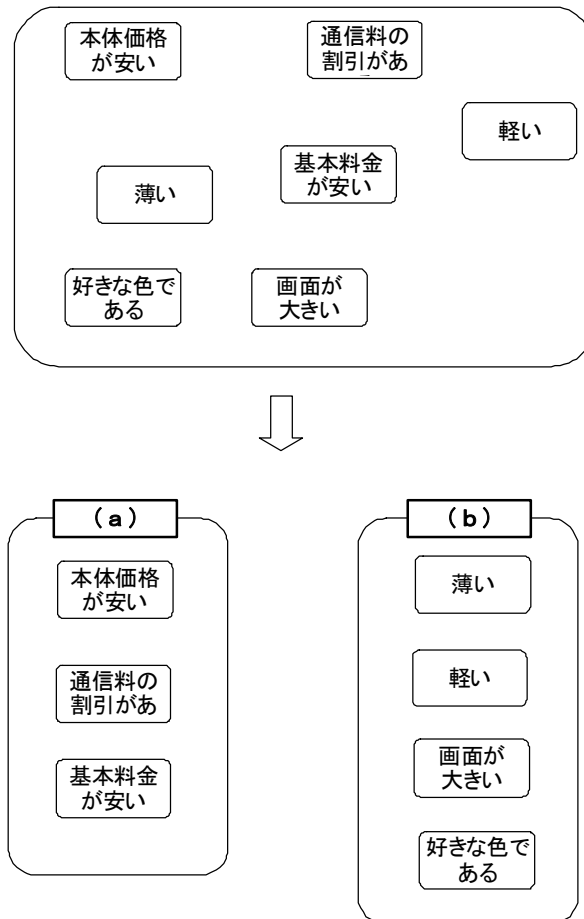


図 グループングと見出し作り

(5) の解答群

- ア. ABC 分析 イ. アローダイアグラム ウ. 管理図 エ. 親和図

(6) の解答群

- ア. (a) 機能 (b) 操作性
 イ. (a) 機能 (b) 本体デザイン
 ウ. (a) 料金 (b) 操作性
 エ. (a) 料金 (b) 本体デザイン

問題2 次の周辺機器に関する各設問に答えよ。

＜設問1＞ 次のハードディスクに関する記述中の□□□□に入れるべき適切な字句を解答群から選べ。

ハードディスクは、パソコン本体に内蔵するタイプや、ケーブルでパソコン本体に接続する外付けタイプがある。ハードディスク用のインタフェースには、
□□(1)□□と□□(2)□□がある。

□□(1)□□は、同期をとりながら数ビットをまとめて転送する方式である。複数の信号線を用いて転送速度を高速にするため、短いタイミングで同期をとることが難しい。

□□(2)□□は、1本の信号線を使って、データを1ビットずつ転送する方式である。構造が簡単なので、転送の高速化がしやすい。

内蔵タイプのハードディスク用インタフェースは、従来□□(1)□□であったが、
□□(2)□□に改良され高速データ転送を実現している。

(1)，(2)の解答群

- ア．シリアル転送
ウ．パラレル転送

- イ．ナローバンド接続
エ．ブロードバンド接続

＜設問2＞ 次のRAIDに関する記述中の□□□□に入れるべき適切な字句を解答群から選べ。

複数のハードディスクにデータを分割して記憶させることで、論理的に1台のハードディスクとして管理し、信頼性や処理速度の向上を図る技術がRAIDである。代表的なRAIDの構成には次のようなものがある。

RAID0は、□□(3)□□とも呼ばれ、図1のように、複数のディスクに均等にデータを分割して記録する。

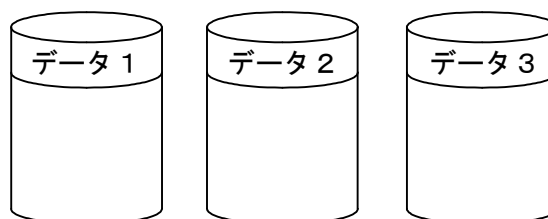


図1 データを分割

RAID1 は、(4)とも呼ばれ、図2のように2台のハードディスクに同じデータを記録する。

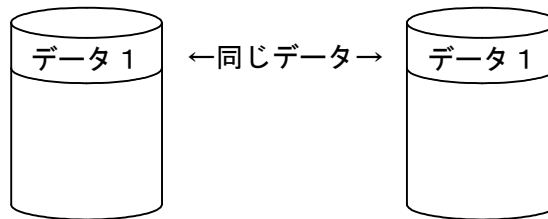


図2 データを複製

RAID5 は、最少3台で構成し、データからパリティを生成する。図3のようにデータとパリティを複数のハードディスクに振り分けて記録する。

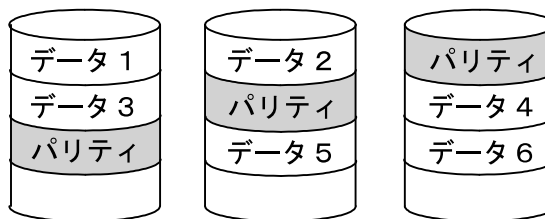


図3 データを分割・パリティを生成

(3) , (4) の解答群

ア. オーサリング

イ. ストライピング

ウ. プロタイピング

エ. ミラーリング

<設問3> 次のRAIDの信頼性や処理速度の向上に関する記述に該当するRAIDの構成を解答群から選べ。

(5) 複数のディスクへデータを並行にアクセスできるので、読み書きの速度向上を図れる。

(6) 1台のハードディスクに障害が発生したとき、残りのハードディスクによりデータを再現できるので、信頼性の向上を図れる。

(7) 1台のハードディスクに障害が発生したとき、バックアップなど他の障害対策を施していない限りデータが消滅するので、信頼性の向上は望めない。

(5) ~ (7) の解答群

ア. RAID0

イ. RAID1

ウ. RAID5

エ. RAID0 と RAID5

オ. RAID1 と RAID5

カ. RAID0 と RAID1 と RAID5

問題3 次のLANに関する各設問に答えよ。

＜設問1＞ 次のLANの接続形態に関する記述を読み、問に答えよ。

LANの論理的な接続形態をトポロジーと呼ぶ。その代表的なものに、スター型、バス型、リング型がある。

スター型は集線装置を中心にして放射状に端末装置を接続するものである。(a)集線装置どうしを接続することでLAN内の端末装置数を増やすことができる。

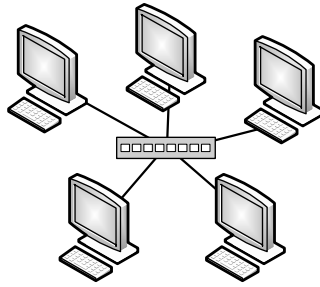


図1 スター型LAN

バス型は1本のケーブルに複数の端末装置を接続するものである。端末装置の追加が容易に行える。

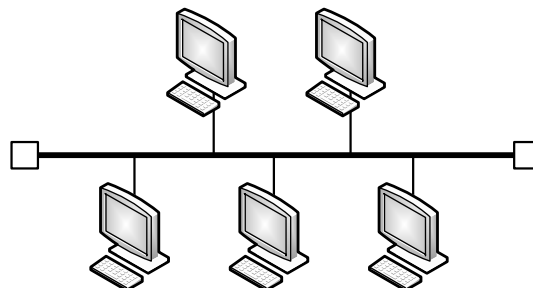


図2 バス型LAN

リング型は端末装置を環状に接続するものである。

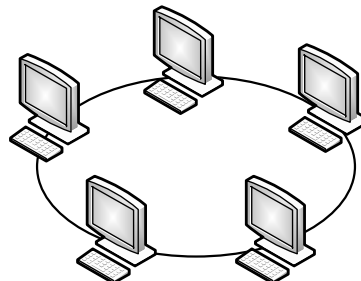


図3 リング型LAN

(1) スター型 LAN で利用される集線装置を解答群から選べ。

(1) の解答群

ア. Ethernet イ. HUB ウ. NIC エ. VPN

(2) 下線 (a) の記述に関係の深い字句を解答群から選べ。

(2) の解答群

ア. カスケード イ. ゲートウェイ ウ. スレッド エ. デイジーチェーン

(3) バス型 LAN において、通信回線の終端に設置する装置を解答群から選べ。

(3) の解答群

ア. ターミネータ イ. ブリッジ ウ. リピータ エ. ルータ

(4) LAN 内を巡回し、アクセス制御する制御パケットを解答群から選べ。

(4) の解答群

ア. スイッチ イ. トークン ウ. バースト エ. ノード

(5) 光ファイバケーブルを使って 100Mbps の速度で通信が行える、リング型 LAN の規格を解答群から選べ。

(5) の解答群

ア. FDDI イ. FTTH ウ. HDLC エ. IP-VPN

<設問 2> 次のアクセス制御に関する記述中の [(6)] に入れるべき適切な字句を解答群から選べ。

スター型とバス型は、アクセス制御方式として主に [(6)] を採用している。

この方法は、データを送信しようとする端末装置が通信回線の通信状況を監視し、通信回線が空いているときに送信を開始するものである。他の端末装置と同時に送信を行うと衝突が発生する。これを [(7)] と呼ぶ。この場合、ある程度時間を空けてから送信する。

LAN 内の端末装置の数が増えると [(7)] が頻発して [(8)] ため、伝送効率が悪くなる可能性が高くなる。そこで、ルータを使うなどして LAN を分割し、 [(7)] を少なくするような工夫をしている。

また、電波が届く範囲であれば、どこに端末装置を設置しても利用できるというメリットを活用した無線 LAN も多くなった。無線 LAN の規格は [(9)] で定められている。

(6) の解答群

ア. ADSL イ. Bluetooth ウ. CSMA/CA エ. CSMA/CD

(7) の解答群

ア. エンティティ イ. キャッシュ ウ. コリジョン エ. バースト

(8) の解答群

ア. 端末装置間の時刻同期が取れなくなる
イ. 電力の供給量が減衰する
ウ. ルータが伝送を一時的に遮断する
エ. 再送信が多くなる

(9) の解答群

ア. IEEE754 イ. IEEE802.11 ウ. IEEE802.3 エ. IEEE1394

問題を読みやすくするために、
このページは空白にしています。

問題4 次の情報ネットワーク社会への対応に関する記述に該当する適切な字句を解答群から選べ。

- (1) コンピュータがPBXなどと連携して、電話やファックスなどに対して自動応答したり、適切な着信者に振り分けたりする技術である。サポートセンタやお客様相談室など、顧客に電話で対応するコールセンタ業務で広く利用されている。
- (2) 原材料から商品までの一連のモノの流れを正確に管理することにより納期短縮や欠品防止を実現して利益の増大を目指す管理手法である。
- (3) 顧客情報や案件情報など、詳細な顧客データベースを共有し、商品の売買から保守サービス、問い合わせやクレームへの対応など、個々の顧客とのすべてのやり取りを一貫して管理することにより顧客との関係を管理する手法である。
- (4) 個人の持つ知識や情報など企業内に散在している知識を共有化し、全体の問題解決力を高め、有効に活用することで業績を上げようという経営手法。形式知だけでなく、暗黙知を含めた幅広い知識を共有して活用することで、新たな知識を創造しながら経営を実践する。
- (5) 対象とする物品とその部品や原材料の流通履歴が確認できるような仕組みのことである。食品では、生産、処理・加工、流通・販売等の食品供給行程の各段階において食品とともに食品に関する情報を追跡することができ、消費者の安全性への関心に対する信頼の確保ができる。
- (6) 企業が保有する顧客や市場などの膨大なデータから、統計学や人工知能などのデータ解析の技法を用いて、ビジネスなどに有効な情報や関係を見つけ出す手法である。
- (7) 専門家の知識をコンピュータに取り入れ、問題解決を図るシステムである。特定分野の専門知識を集めたデータベースを基に推論を行い、その分野の専門家に近い判断を行う。
- (8) 企業の様々な活動を介して得られた時系列データを整理・統合しておき、意思決定支援などに利用するもの。蓄積される時系列データは、特定の分析処理に適した形に加工したものではなく、あくまでも源データである。

(1) ～ (4) の解答群

ア. CRM

ウ. CTI

オ. コアコンピタンス経営

イ. CSR

エ. SCM

カ. ナレッジマネジメント

(5) ～ (8) の解答群

ア. エキスパートシステム

ウ. データクレンジング

オ. データマッピング

イ. データウェアハウス

エ. データマイニング

カ. トレーサビリティ

問題5 次の情報セキュリティに関する各設問に答えよ。

＜設問1＞ 次のコンピュータウイルスに関する記述中の□□□□に入れるべき適切な字句を解答群から選べ。

コンピュータウイルスとは、意図的に何らかの被害を及ぼすように作られ、「伝染」「潜伏」「発病」の機能のうちいずれか一つ以上をもつプログラムのことをいう。

初期には実行型ファイルだけに感染するといわれていたが、ワープロソフトや表計算ソフトなどのアプリケーションのある機能を悪用して作られた□□(1)□□は、データファイルで感染する種類である。

なお、有用なプログラムに見せかけて侵入し、プログラムを実行した時点でデータを破壊する悪意あるプログラムを□□(2)□□という。また、ネットワークを介してコンピュータに侵入し、破壊活動や自己増殖的に他のコンピュータにも侵入する悪意あるプログラムを□□(3)□□という。現在ではこれらもコンピュータウイルスとされている。

(1) ～ (3) の解答群

- | | |
|---------------|-----------|
| ア. エクスプロイトコード | イ. スпам |
| ウ. デマウイルス | エ. トロイの木馬 |
| オ. マクロウイルス | カ. ワーム |

＜設問2＞ 次のコンピュータウイルス感染に関する記述中の□□□□に入れるべき適切な字句を解答群から選べ。

OS やアプリケーションソフトウェア上の欠陥であり、セキュリティ上問題となる□□(4)□□について、ウイルスが感染することがある。これを防ぐには、セキュリティの不具合を修正する□□(5)□□をインストールして、安全性を高めることが重要である。

また、ワクチンソフトを常駐させておくことも重要である。ワクチンソフトは新しいコンピュータウイルスに対する□□(6)□□を常に更新しておく必要がある。

(4) ～ (6) の解答群

- | | |
|---------------|--------------|
| ア. ウイルス定義ファイル | イ. スパイウェア |
| ウ. セキュリティパッチ | エ. セキュリティポリシ |
| オ. セキュリティホール | カ. 添付ファイル |

＜設問 3＞ 次のコンピュータウイルスに感染した場合の対処法として不適切なものを解答群から選べ。

(7) の解答群

- ア．感染したコンピュータを直ちにネットワークから遮断し，ネットワーク管理者に報告する。
- イ．感染したコンピュータからネットワーク管理者にメールで報告し，ネットワークを利用して感染原因を調べる。
- ウ．必要に応じてシステムの初期化・再インストールを行う。
- エ．感染経路を特定し，再発防止策を講じる。

問題6 次の表計算に関する記述を読み、各設問に答えよ。

この問題で使用する表計算ソフトの仕様は、下記のとおりである。

DATE 関数

引数の年，月，日に該当する日付を表すシリアル値を返す。

書式：DATE(年，月，日)

WEEKDAY 関数

日付を表すシリアル値から曜日を表す数値（1～7：1 が日曜，2 が月曜，…，7 が土曜）を返す。

書式：WEEKDAY(シリアル値)

HOUR 関数

時刻を表すシリアル値から時の値（0～23）を返す。

書式：HOUR(シリアル値)

MINUTE 関数

時刻を表すシリアル値から分の値（0～59）を返す。

書式：MINUTE(シリアル値)

IF 関数

条件が真の時に真の場合，偽の時に偽の場合の計算結果や値を返す。

書式：IF(条件式，真の場合，偽の場合)

IFERROR 関数

式にエラーが無ければ式の値を，エラーがあればエラー処理の結果を返す。

書式：IFERROR(式，エラー処理)

ISERROR 関数

式にエラーがあれば真，エラーが無ければ偽を返す。

書式：ISERROR(式)

MID 関数

文字列中の指定した位置から始まる指定した文字数の文字列を返す。

書式：MID(文字列，位置，文字数)

AND 関数

論理式のすべての評価が真であれば真，1 つでも偽であれば偽を返す。

書式：AND(論理式 1，論理式 2，…)

OR 関数

論理式の評価が 1 つでも真であれば真、すべて偽であれば偽を返す。

書式：OR(論理式 1, 論理式 2, …)

VLOOKUP 関数

範囲の中から検索値を左端に含む行を検索し、指定した列位置の値を返す。検索の型に 0 を指定すると検索値と完全に一致する値を検索し、1 を指定すると検索値と一致する値がない場合に、検索値未満で一番大きい値を検索する。

なお、該当する行が検索できなかった場合は、エラーになる。

書式：VLOOKUP(検索値, 範囲, 列位置, 検索の型)

アンパサンド (&) 演算子

1 つ以上の文字列を連結して 1 つの文字列にする。

式

=に続けて計算式や関数などを入力する。

セル番地の参照

セル番地に\$を付けることで、絶対番地（絶対参照）を表す。

別シートの参照

ワークシート名に「!」を付けてセル位置を指定することにより別シートを参照できる。

J レストランは、A シェフが経営するイタリアンのお店である。A さんは数名のアルバイトを雇っており、アルバイトの給与を計算するために表計算ソフトを利用している。

- ・アルバイトの人たちには 1 枚ずつ磁気カードが配られている。出退勤時にカードリーダーに通すことで、出退勤の管理をしている。
- ・退勤時間から出勤時間を引いたものを勤務時間とする。なお、時給は 30 分（0.5 時間）単位で計算する。例えば、14 時 15 分に出勤し、18 時 25 分に退勤した場合、勤務時間は 4 時間 10 分となり、時給は 4.5 時間として計算する。
- ・日曜日と祝日は時給に 100 円加算される。
- ・アルバイトの給与は、月末日までを集計して翌月 10 日に支払われる。
- ・日付をまたいで勤務することはない。

[社員表について]

アルバイトの時給や氏名の情報を「社員表」にまとめている。現在アルバイトの人数は10名である。

表 1 社員表

	A	B	C
1	社員コード	社員名	時給
2	J001	佐藤 宗	800
3	J002	西田 萌美	800
4	J003	笹木 真治	900
5	J004	武藤 剛	920
6	J005	田野 光莉	850
7	J006	栗田 洋介	850
8	J007	丹野 栞	900
9	J008	春日 樹	900
10	J009	渡辺 美知	850
11	J010	宗田 貴太郎	900

[祝日表について]

日曜日と祝日は時給を100円加算するため、祝日の情報を「祝日表」にまとめている。日付はシリアル値で格納されており、日付の形式で表示されている。

表 2 祝日表

	A	B
1	日付	祝日名
2	1月1日	元日
3	1月14日	成人の日
4	2月11日	建国記念の日
5	3月20日	春分の日
6	4月29日	昭和の日
7	5月3日	憲法記念日
8	5月4日	みどりの日
9	5月5日	こどもの日
10	5月6日	振替休日
11	7月15日	海の日
12	9月16日	敬老の日
13	9月23日	秋分の日
14	10月14日	体育の日
15	11月3日	文化の日
16	11月4日	振替休日
17	11月23日	勤労感謝の日
18	12月23日	天皇誕生日

[データ表について]

アルバイトがカードリーダーに通した磁気カードの情報は、専用のソフトウェアを利用することでCSV形式のデータにまとめられる。

まとめられたデータは「データ表」に読み込む。データは、日付、社員コード、出勤時刻、退勤時刻の順に昇順に並んでいる。

表3 読み込んだ「データ表」

	A	B	C	D
1	日付	社員コード	出勤時刻	退勤時刻
2	2013/11/1	J001	10:20	17:10
3	2013/11/1	J003	10:15	14:21
4	2013/11/1	J004	11:30	18:20
5	2013/11/1	J007	16:30	22:10
6	2013/11/2	J001	10:15	13:21
7	2013/11/2	J002	10:21	13:25

このままでは検索がしにくいので、A列の左に1列挿入し、社員コードと日付を合成して検索キーを作成する。

セルA2に次の式を挿入し、セルA3以降に複写した。

= C2 & B2

表4 修正した「データ表」

	A	B	C	D	E
1	検索キー	日付	社員コード	出勤時刻	退勤時刻
2	J00141579	2013/11/1	J001	10:20	17:10
3	J00341579	2013/11/1	J003	10:15	14:21
4	J00441579	2013/11/1	J004	11:30	18:20
5	J00741579	2013/11/1	J007	16:30	22:10
6	J00141580	2013/11/2	J001	10:15	13:21
7	J00241580	2013/11/2	J002	10:21	13:25

なお、B列の日付、D列の出勤時刻とE列の退勤時刻はシリアル値になっており、それぞれ日付および時刻の形式で表示されている。また、A列に合成した日付の値はシリアル値である。

今月の勤務データは120件あるので、データ表の121行まで格納されている。

[個別表について]

アルバイト一人ずつの情報を表示するため、「個別表」を作成した。

表5 個別表

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
1	年	2013		従業員コード	J003					
2	月	11		氏名	笹木 真治					
3	終了日	30		時給	900					
4										
5	日	曜日	出勤時刻	退勤時刻	勤務時間	計算用時間	給与		検索キー	祝日フラグ
6	1	金	10:15	14:15	4:00	4	3,600		J00341579	0
7	2	土	14:30	18:20	3:50	4	3,600		J00341580	0
8	3	日	10:25	15:32	5:07	5.5	5,500		J00341581	1
9	4	月							J00341582	1
10	5	火	15:20	21:12	5:52	6	5,400		J00341583	0
11	6	水							J00341584	0
12	7	木	15:21	20:21	5:00	5	4,500		J00341585	0
13									J00341586	0
33	28	木							J00341606	0
34	29	金							J00341607	0
35	30	土	17:21	20:10	2:49	3	2,700		J00341608	0
36										0
37	合計					88.5	82,150			

この表は、セルB1の年とセルB2の月およびセルA6以降の日、セルE1の社員コー

ドなどから、社員の勤務情報をデータ表（表 4）から検索して 6 行目以降に表示し、勤務時間と給与を計算する。また、セル E2 と E3 の氏名と時給は社員表から検索して表示する。

I 列および J 列は作業用データの領域である。

I 列はデータ表を検索するために使用する検索キーであり、社員コードと日付のシリアル値を合成したものである。

J 列は祝日であれば 1、祝日でなければ 0 を表示している。

＜設問 1＞ 次の日付と曜日の表示に関する記述中の に入れるべき適切な字句を解答群から選べ。

個別表のセル A6～A36 は集計する月の日付を 1 から月末日まで表示する。

1 カ月の日数は 28～31 日までであり、年や月によって異なる。そこで、月末日をセル B3 に入力して対応する。

セル A6～A33 までは 1～28 の値を入力しているが、セル A34～A36 はセル B3 の月末日と比べて表示するかを判断するため、セル A34 に次の式を入力し、セル A35 と A36 に複写した。

= (1)

B 列は曜日を表示するが、日付によって曜日を表示しない場合もあるので、次の式をセル B6 に入力し、セル B7～B36 に複写した。

=IF(A6="", "", MID("日月火水木金土", (2), 1))

(1) の解答群

ア. IF(B\$3>A33, "", A33 + 1)

イ. IF(B\$3>A33, A33+1, "")

ウ. IF(\$B3>A33, "", A33 + 1)

エ. IF(\$B3>A33, A33+1, "")

(2) の解答群

ア. WEEKDAY (DATE (B1, B2, A6))

イ. WEEKDAY (DATE (B1, B2, A\$6))

ウ. WEEKDAY (DATE (B\$1, B\$2, A6))

エ. WEEKDAY (DATE (B\$1, B\$2, A\$6))

＜設問 2＞ 次の作業用データ作成に関する記述中の [] に入れるべき適切な字句を解答群から選べ。

個別表の I 列はデータ表を検索するための値として、J 列は祝日の判断用として使用する。

I 列は、データ表の中から検索するために使用する検索値を表示するため、セル E1 に入力した社員コードと日付のシリアル値を合成する。次の式をセル I6 に入力し、セル I7～I36 まで複写した。

= IF(A6="", "", [] (3))

J 列は祝日表に日付が存在するかどうかを 0 または 1 で表示する。日付の有無は VLOOKUP 関数を使って検索した結果がエラーになるかどうかで判断するように、次の式をセル J6 に入力し、セル J7～J36 まで複写した。

= IF([] (4) (VLOOKUP([] (5), 祝日表!A\$2:B\$18, 1, 0)), 0, 1)

(3) の解答群

ア. E1 & B1 & B2 & A6

イ. E1 & DATE(B1, B2, A6)

ウ. E\$1 & B\$1 & B\$2 & A6

エ. E\$1 & DATE(B\$1, B\$2, A6)

(4) の解答群

ア. IF

イ. IFERROR

ウ. ISERROR

エ. VLOOKUP

(5) の解答群

ア. B1 & B2 & A6

イ. DATE(B1, B2, A6)

ウ. B\$1 & B\$2 & A6

エ. DATE(B\$1, B\$2, A6)

＜設問 3＞ 次の出勤時刻と退勤時刻の表示に関する記述中の に入れるべき適切な字句を解答群から選べ。

個別表のセル C6～C36 に出勤時刻，セル D6～D36 に退勤時刻をデータ表から検索して表示する。

データ表からの検索値として I 列の値を利用し、データ表の中に見つければ出勤時刻または退勤時刻を表示し、見つからなければ空白を表示する。出勤時刻を表示するため、セル C6 に次の式を入力し、セル C7～C36 まで複製した。

= (6) (VLOOKUP(I6, データ表!\$A\$2:\$E\$121, 4, 0), "")

同様にして退勤時刻を表示するため、同様の式をセル D6 に入力し、セル D7～D36 まで複写した。

(6) の解答群

ア. IF

4. IFERROR

ウ. ISERROR

工. VLOOKUP

＜設問 4＞ 次の勤務時間の計算に関する記述中の に入れるべき適切な字句を解答群から選べ。

個別表のセル E6～E36 は、出勤時刻と退勤時刻から勤務時間を計算するため、次の式をセル E6 に入力し、セル E7～E36 まで複写した。

なお、計算は出勤時刻と退勤時刻の両方の値が表示されている場合に計算する。

$$= \text{IF}(\boxed{(7)}, \text{D6-C6}, "")$$

セル F6～F36 は、給与を計算するために 30 分（0.5 時間）単位に切り上げた値を計算する。

ここでは、時刻の分の値が 1～30 の場合は 0.5、31～59 の場合は 1 を時間の値に加えるため、次の式をセル F6 に入力し、セル F7～F36 まで複写した。

$$= \text{IF}(\text{E6}=" ", " ", \text{HOUR}(\text{E6}) + \text{IF}(\text{MINUTE}(\text{E6})=0, 0, \text{IF}(\text{MINUTE}(\text{E6})\leq 30, 0.5, 1)))$$

(7) の解答群

```

ア. AND(C6<>"", D6<>"")

```

1. AND(C\$6<>"", D\$6<>"")

ウ. OR (C6="", D6="")

⊥. OR(C\$6="", D\$6="")

<設問 5> 次の給与の計算に関する記述中の に入れるべき適切な字句を解答群から選べ。

個別表のセル G6～G36 は、1 日当たりの給与を計算する。

日曜日および祝日の場合は時給に 100 円加算しなければならない。E 列の勤務時間が空でないときに計算するため、次の式をセル G6 に入力し、セル G7～G36 まで複写した。

= IF(E6="", "", IF((8), E\$3+100, E\$3) * F6)

(8) の解答群

ア. OR(B6="日", J6=1)

イ. OR(B6="日", J6<>1)

ウ. OR(B6<>"日", J6=1)

エ. OR(B6<>"日", J6<>1)

